

## 【学生によるESD活動支援】

### 奈良教育大学附属幼稚園 世界遺産学習 支援報告書

英語教育専修 大学院1回生 谷垣徹

1. 実施日 平成30年11月6日(火)
2. 場所 奈良教育大学附属幼稚園 遊戯室
3. 参加者 井上日奈都、大畑和佳、岡橋菜々香、丹羽規子、東谷未来、三木菜々子、水迫ありさ、八木萌(幼年教育専修)、谷垣徹(大学院英語教育専修)
4. 内容 <年長クラス> 東大寺二月堂(お水取り、良弁杉など)、奈良公園の鹿について  
<年中・年少クラス> 東大寺大仏殿、南大門(金剛力士像)、奈良公園の鹿について
5. 概要報告

奈良教育大学附属幼稚園では、世界遺産学習の一環として東大寺大仏殿・二月堂方面へ遠足に出かけるが、その事前学習として、奈良教育大学ユネスコクラブの学生がデジタル教材を用いて支援を行っている。この活動は毎年継続して行っているものであり、今回で6年目を迎えた。幼稚園児が楽しんで学習できるように、アニメーションやクイズを効果的に取り入れ、デジタル教材の作成を行っている。今回は幼年教育専修1回生の学生が中心となって行った。



クイズを交えて楽しく学習

この活動を通して感じたことを、以下の2点で振り返る。一つ目に大学生にとっての経験、二つ目にユネスコスクールとしての発展についてである。

一つ目に、大学生にとっての経験についてである。この活動は本学ユネスコクラブの学生を中心に、6年間継続して行ってきたものである。今年は幼年教育専修の学生が多く所属しているため、専門の学生が携わることができた。しかし、幼年教育専修の学生とはいえ、1回生は大学での専門的な学びを始めたばかりで、現場で実際に子どもたちと関わる経験を持つ学生はそう多くない。大学の講義で得た学問的、理論的な学びを、現場での実践とつなげることは非常に重要であり、学生にとって非常に有意義な経験の場であった。子ども理解、子どもとの関わり方、教材開発力、ICT活用など、様々なことを実践的に学ぶことができた。

二つ目に、ユネスコスクールとしての発展についてである。奈良教育大学は2007年に、大学として日本で始めてユネスコスクールに加盟した大学である。その後、附属中学校、附属小学校に続き、附属幼稚園も今年度、ユネスコスクールに加盟した。ESDの推進拠点であるユネスコスクールの取り組みとして、この世界遺産学習は非常に価値のある取り組みである。これをきっかけに、ESDの観点からプログラムを再検討し、世界遺産の価値、先人の思いや努力についてより良く学べる教材開発に組み込みたいと考える。世界遺産学習を中心としたESDを特色とした本学のユネスコスクール活動の経験を生かし、今後も本活動を発展させていきたい。

以上2点が、本活動を通しての学びと今後の展望である。6年間の経験を次世代へと受け継ぎ、今後ますます本活動を発展させていくとともに、幼稚園児からの幅広いESD・ユネスコスクール活動の発展に携わっていきたい。